

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果(豊里中学校)

## 平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	数学
豊里中	54%	54%
埼玉県	59%	53%
全国	58.1%	52.5%

## 児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	豊里中	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	97.3	91.7	91.2
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	86.8	81.0	80.7
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	94.8	92.5	92.5
学習習慣	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	100	80.7	78.6
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	92.1	84.6	82.7
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	81.5	65.5	63.0
	放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごすことが多い	84.2	77.1	71.1
教科への関心	国語の勉強は好きだ	78.9	64.3	64.3
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	100	91.4	90.6
	数学の勉強は好きだ	73.6	57.1	57.2
	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	94.7	77.6	78.5
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	92.1	84.1	80.3
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	97.4	71.8	64.8
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	86.9	80.4	75.4
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた	100	88.7	86.1
その他	自分には、よいところがあると思う	92.1	84.7	83.3
	将来の夢や目標を持っている	84.2	68.0	66.3
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100	95.3	95.2

## 【質問紙分析】

- ・朝食を毎日食べ、起床時間が安定している生徒が多い。一方で、就寝時間が安定しない生徒が1～2割程度いる。
- ・学校の授業時間以外に勉強する生徒が多く、よい学習習慣が身に付いている。
- ・9割以上の生徒が各教科で学んだことが社会に出たときに役立つと考えており、学習に前向きな気持ちで取り組むことができている。
- ・授業に主体的に取り組む生徒が多い一方で、学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動に苦手意識をもっている生徒が1～2割程度いる。
- ・すべての生徒が、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる。
- ・多くの生徒が、自分にはよいところがあると感じ、将来は人の役に立つ人間になりたいと考えている。その一方で、将来の夢や目標が明確になっていない生徒が1～2割程度いる。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

### 【国語】

- 「文章の全体と部分との関係の注意しながら、主張と例示との関係を捉える問題」の正答率が高かった。
- 「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする問題」の正答率が高かった。
- 資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話すための読み取りができていない。
- 目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題があり、必要な情報の取捨選択ができていない。
- 表現の技法について触れる機会が少なく、知識としての定着がされていないため、関連する問いへの正答率が低くなっている。

### 【数学】

- 確率や最頻値を求める問題の正答率が高かった。
- 等式変形を用いる問題の正答率が高かった。
- 記述問題での正答率が低く、数学の用語を用いて、論理的に表現できていない。
- 質問の意図に沿っていない解答をしている生徒が複数名おり、問題文を正しく読み取れていない可能性がある。
- 関数領域の正答率が低く、一次関数の  $x$  と  $y$  の関係性への理解が不十分である。

### 【国語】

- ・複数の資料を比較する授業を行い、課題を解決するために必要な情報を正確に捉えるように指導する。また、話し合いを通して相手に伝わりやすいように工夫するなどの回数を増やしていく。
- ・俳句・短歌の授業の時だけでなく、ほかの場面でもその表現について話をしていく。

### 【数学】

- ・関数領域の表、グラフ、式の関連付けをする指導を各学年の関数領域の中で継続していく。
- ・意図的に文章問題を取り入れ、問題の意味を理解してから解くように指導する。
- ・数量関係を表やグラフを用いて対比させ、数学の用語を使って自分の言葉で書く時間を増やす。
- ・学力向上プロジェクトを通して、繰り返し問題に取り組むことで「分かる」「できる」感覚をつかませ、前向きな気持ちで学習に取り組めるように指導する。

### 【その他】

- ・学習した内容が定着しにくい傾向があるため、効果的な学習方法を指導していく。